

(シラバスNo.9)

科目名	学校教育相談特論	科目コード	(2021年カリキュラム) / (2024年カリキュラム) 21P-B2/24P-B1	
		科目群名	(2021年カリキュラム) 専門科目 (学校教育領域) (2024年カリキュラム) 専門科目 (B群)	
	Advanced Seminar on School Educational Counseling	必修/選択	(2021年カリキュラム) / (2024年カリキュラム) 選択/選択	
		教職	小・中・高	
担当教員	芳川 玲子	単位数	2	

【授業概要】

本授業の目的は、小・中・高等学校で行われている教育相談の理論と学校現場に沿った実践方法や課題解決を理解することである。中学校学習指導要領解説（特別活動編 平成11年）によれば、「教育相談は、一人一人の生徒の自己実現を目指し、本人又はその保護者などに、その望ましい在り方を助言することである」としている。しかし、現在児童生徒を取り囲む状況を見れば、助言だけでなく、さまざまな知識と手法を持ってはじめて具体的な対処ができる。これを踏まえ、本授業では、①前半の数回は学校で行う教育相談に関する知識を把握する、②授業の中間回からできるだけ学校で課題になっている諸問題を中心に概念を整理し、問題解決の糸口を探求する、③後半の数回は専門機関との連携や教師自身のメンタルヘルスを理解するという形で授業を行う。

授業では座学で終わることがないように、受講者の興味関心や実践に応じた自主発表、グループに分かれての討議、時には演習を入れ、理論と実践両方の理解の深化をねらう。受講者のニーズに合わせて内容をある程度焦点化して行うこともあるが、原則として授業計画にある内容を扱う。

【授業の到達目標】

- ①学校における教育相談の知識と技法を理解できる
- ②学校で発生している諸問題の概念的理解と対応について理解できる
- ③問題解決をさまざまな専門性を総合するような形でアセスメントを行い、方法を立案することができる

【授業の形態】

メディア授業の実施（あり）

<授業の特徴>（主に実施に◎、実施に○を付けてください）

形態	実施	具体的に実施すること
講義	◎	各授業回のテーマに沿った資料の配付
グループワーク・質疑	◎	受講者全員による授業回テーマの討議
演習		
プレゼンテーション	◎	各授業回で受講者による発表
制作		
その他（ ）		

【授業計画】

回	内 容
1	ガイダンス
2	学校教育相談とは何か
3	教育相談におけるアセスメント
4	カウンセリングの理論と方法
5	コンサルテーション
6	チーム学校における支援
7	不登校問題の理解と対応
8	いじめ問題の理解と対応
9	自死・自傷の理解と対応

10	特別な支援を必要とする児童生徒の理解と対応
11	虐待問題の理解と対応
12	保護者支援のあり方
13	専門機関との連携
14	学校における緊急支援
15	教師のメンタルヘルス
<b>試験</b>	
【履修上にあたっての準備】	
・授業内容に関わる受講者自身の体験・経験について整理しておくこと	
【授業外学修（予習・復習）】	
・各回のテーマについて自身の知識を整理しておくこと	
・授業内で決定した課題発表の準備を行うこと	
・各回の授業後には、レポート試験を見据え、発表や授業内容についてまとめておくこと	
【評価方法】	
・レポート試験（50%）、課題発表資料の提出・発表（30%）、グループワーク・質疑（20%）	
【教科書】	
・毎回資料を配付する	
【参考図書】	
・藤原和政他（2020）『学校現場で役立つ教育相談：教師をみざす人のために』 北大路書房 ISBN 9784762831256	
・高橋陽一他（2016）『新しい教育相談論』 武蔵野美術大学出版局 ISBN 9784864630474	
・芳川玲子他（2008）『教師のための学校教育相談学』 ナカニシヤ出版 ISBN 9784779501944	
・津川律子他（2023）『教育相談第2版 Next 教科書シリーズ』 弘文堂 ISBN 9784335002519	
・斎藤富由起他（2021）『教育相談の最前線：歴史・理論・実践』 八千代出版 ISBN 9784842918044	
・石隈利紀他（2021）『スクールカウンセリングのこれから』 創元社 ISBN 9784422167688	
・学習指導要領及び解説（小学校・中学校・高等学校）：文部科学省	
その他、授業内でも関連図書を紹介する	